

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	建築史 I
科目基礎情報						
科目番号	0039		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	建築と都市の歴史（光井渉他 井上書院）、改訂 西洋建築史図集（日本建築学会編 彰国社）					
担当教員	清水 隆宏					
到達目標						
①西洋各時代の建築様式の変遷を理解する。 ②西洋の建築・都市における生活環境と、その歴史的・文化的背景の理解 ③近代建築から現代建築に至るプロセスを理解する。 ④近代建築の建築的特性を作品と関連させて理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	西洋の古代から近世、各時代における建築様式について十分に理解できる。		西洋の古代から近世、各時代における建築様式について概ね理解できる。		西洋の古代から近世、各時代における建築様式について理解できない。	
評価項目2	社会の変化が、西洋各時代の建築に与えた影響について十分に理解できる。		社会の変化が、西洋各時代の建築に与えた影響について概ね理解できる。		社会の変化が、西洋各時代の建築に与えた影響について理解できない。	
評価項目3	近代から現代における建築様式およびその変遷過程について十分に理解できる。		近代から現代における建築様式およびその変遷過程について概ね理解できる。		近代から現代における建築様式およびその変遷過程について理解できない。	
評価項目4	近代建築の各時期の建築作品の作者、建築的特性について十分に理解できる。		近代建築の各時期の建築作品の作者、建築的特性について概ね理解できる。		近代建築の各時期の建築作品の作者、建築的特性について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	建築に携わる者は、社会の変動を見つめ、大局的な視点で発想をすることが求められる。具体的には、建築が社会の変化といかに関わり、その結果どのような変遷・形態を生じたのかを把握することで、建築をより深く理解する。					
授業の進め方・方法	・用語を丸暗記するのではなく、作品と結び付けて理解するように努めること。 ・身近で確認できる建築形式については、積極的に見学して体験とともに理解することを勧める。 ・図書館等で、関連する文献（専門書・一般書・雑誌・写真集）に触れることが望ましい。 英語導入計画：Technical terms					
注意点	前・後期ともに中間試験100点＋期末試験100点、通年合計400点の総得点率（％）により成績評価を行う。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の1～10％を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点（％）を対応させる。 学習・教育目標：（D－2）100％					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	西洋建築史の意義と西洋建築の発生		西洋建築史の意義と西洋建築の発生について理解する	
		2週	西洋古代－エジプト建築		エジプト建築について理解する	
		3週	西洋古代－オリエント建築		オリエント建築について理解する	
		4週	西洋古代－ギリシア建築		ギリシア建築について理解する	
		5週	西洋古代－ローマ建築（1）		ローマ建築について理解する	
		6週	西洋古代－ローマ建築（2）		ローマ建築について理解する	
		7週	西洋中世－ビザンチン建築、イスラム建築		ビザンチン建築、イスラム建築について理解する	
		8週	中間試験		西洋古代建築について理解する	
	2ndQ	9週	中間試験の返却・解説および評価の説明、中間のまとめ（ALのレベルC）		西洋古代建築について理解する	
		10週	西洋中世－ロマネスク建築		ロマネスク建築について理解する	
		11週	西洋中世－ゴシック建築		ゴシック建築について理解する	
		12週	西洋近世－ルネサンス建築（1）		ルネサンス建築について理解する	
		13週	西洋近世－ルネサンス建築（2）		ルネサンス建築について理解する	
		14週	西洋近世－バロック建築		バロック建築について理解する	
		15週	期末試験の返却・解説および評価の説明、西洋近世－ロココ建築		ロココ建築について理解する	
		16週				
後期	3rdQ	1週	近代建築を学ぶことの意味		近代建築を学ぶことの意味について理解する	
		2週	19世紀の試行錯誤		19世紀頃の西洋近代建築について理解する	
		3週	近代建築前夜からモダニズムの幕開けへ		19世紀頃の西洋近代建築について理解する	
		4週	モダニズム建築 1（欧州各国の建築）		欧州各国の近代建築について理解する	
		5週	モダニズム建築 2（表現主義と有機的建築、近代の都市）		表現主義と有機的建築について理解する	
		6週	伝統への回帰		大戦間期の古典主義について理解する	
		7週	近代から現代へ		大戦後から現代への建築について理解する	
		8週	中間試験		西洋近代建築全般について理解する	

4thQ	9週	中間試験の返却・解説および評価の説明、中間のまとめ（ALのレベルC）	西洋近代建築全般について理解する
	10週	日本近代－西洋建築技術の伝来（洋式工場建設と擬洋風建築）	擬洋風建築について理解する
	11週	お雇い外国人による近代建築	お雇い外国人建築家について理解する
	12週	日本人建築家の誕生とその後の活躍（明治期の近代建築）	明治期の近代建築について理解する
	13週	日本人建築家の誕生とその後の活躍（大正昭和前期の近代建築）	大正昭和前期の近代建築について理解する
	14週	モダニズム建築の登場とその後の展開	日本のモダニズム建築について理解する
	15週	期末試験の返却・解説および評価の説明、近代都市住宅の確立と小住宅への挑戦	日本近代建築全般について理解する
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	環境・設備	風土と建築について説明できる。	2	
			計画・歴史	近現代都市の特質と課題について説明できる。	1	
				近代の都市計画論について説明できる。	1	
				古代(例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど)の特徴について説明できる。	4	
				中世(例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど)の特徴について説明できる。	4	
				近世(例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど)の特徴について説明できる。	4	
				日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	400	0	0	0	0	0	400
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	400	0	0	0	0	0	400
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0